

熊野古道トコトコ道中記「紀伊路・中辺路」編 <後編> 高鍋 学
2017年

⑩ 11月17日 みなべ町から 千里王子・田辺市へ (みなべ町・田辺市) 20km 晴

いよいよ紀伊路の終着点、口熊野と呼ばれた田辺へ入っていく。

JR 岩代駅から梅林の中の農道を進むが梅林で周囲は見えない。持っている地図に道は記されておらず、道標だけを頼りに迷路のような道を歩く。JR のガードをくぐって海岸に出ると、そこに第六十七「千里王子」があった。往時は岩代から千里王子まで浜を歩いたようだが、現在は砂浜が痩せたため通れなくなっている。

田辺市内に入って南方熊楠の墓がある真言宗「高山寺」に寄る。落ち着いたのある寺だ。墓地は広いので、熊楠の墓へ進む案内標識と、もう一つ、合気道を開創した植芝盛平の墓を示す標識があった。外国からも合気道関係者の墓参があるという。



<赤線は今回歩いたルート>

14 時前に紀伊田辺駅に到着し、横の観光案内所に寄って 10 種類の「和歌山県街道マップ熊野古道」地図を頂いた。解りやすく書いてあり、これがあればこれまでの旅もどんなに楽しかったかと思う。熊野古道を計画する人の必見地図だ。

第六十七「千里王子」から第七十「出立王子」まで。

宿) 紀伊田辺駅前 「田辺ステーションホテル」 素泊 5,300 円。 周辺は南紀最大の盛り場。

⑪ 11月18日 紀伊田辺駅から 稲葉根王子・滝尻へ (田辺市・上富田町・中辺路町)

25km 雨

大阪から紀伊路を南下してきた古道は、田辺で進路を内陸に変え、中辺路となって、熊野の山々を本宮へと分け入る。

中辺路の玄関口滝尻へは「潮見峠越」と「旧国道 311 号ルート」と二つある中、途中で幾つも王子があり、一般的な「旧国道 311 号ルート」を採った。始めは旧国道を歩くが、富田川沿いの稲葉根王子からは川伝いの細い道となり、本格的な熊野古道の雰囲気を持ってくる。この辺りの道は近ごろ世界遺産に追加登録されたようだ。



<滝尻王子>

この日の目的地、滝尻に宿を探したが取れず、バスで田辺に引き返すことにした。バスを待つ間「熊野古道館」に寄って古道の歴史資料などを見学。

第七十一「秋津王子」から第七十八「滝尻王子」まで。

宿) 前日と同じ「田辺ステーションホテル」素泊 5,300 円。 建物は古いが掃除が行き届いていた。

⑫ 11月19日 滝尻王子から 十丈王子・近露王子へ (田辺市中辺路町) 13km 晴

紀伊田辺駅前6時50分発のバスに乗り、滝尻着7時30分。滝尻王子から山に入ると、古道は杉の根を踏んで坂を登る。この日は距離が短くて時間にゆとりがあったので、途中の「高原霧の里休憩所」でゆっくり休む。そこで会ったドイツ人夫妻は北海道や屋久島にも行ったというが、日本のトレッキング旅情報が海外にかなりPRされているのだろう。

道は世界遺産らしく杉林の中に整備された道が続き、ごみも本宮大社まで見あたらなかった。和歌山県は県下全体でゴミ持ち帰り運動を推進しているようだ。



<杉の根の道>

計画では、この日継桜王子まで進むつもりだったが、宿が取れなかったので4km手前の近露に宿をとった。

第七十九「不寝王子」から 第八十三「近露王子」まで。

宿) 近露王子のそば 民宿「ちかつゆ」2食付9,870円。 宿も温泉もよい。

⑬ 11月20日 近露から 継桜王子・発心門王子・熊野本宮大社へ (中辺路町・本宮町)

26km 晴

宿でお昼のおにぎりを用意してもらって出発。この日の距離は長く、日没が考えられるのでライトを準備した。道は整備されているがアップダウンの激しい所もあり、2本のストックが頼りになった。途中「船玉神社」の所から本宮大社へは、「発心門王子」コースと、「赤木越」コースとがあり、今回は古くから多く使われてきた発心門コースを採った。途中で古道歩きの人に会ったのは欧米人8人だけだった。

紀伊路の途中から発声練習を始め、「み・みえ・みえあ・みえあお」など、歩きながらも息の切れない発声を選んだ。1週間続けていると声がよく出るようになり、「え」の発音も響くようになったし、歌も桑田佳祐のNHK朝ドラ主題歌「若い広場」を歌って、疲れを忘れた。



<継桜王子>

17時「熊野本宮大社」に到着。もう辺りは暗くなっていたが、大社から少し先の、明治22年の洪水まで大社が鎮座していた大齋原に行き、32mの大鳥居を見上げた。

第八十四「比曾原王子」から九十五「祓殿王子」まで。

宿) 本宮町 「蒼空げすとはうす」朝付 7,000円。 外国人に人気。

⑭ 11月21日 本宮町から 請川・小雲取越・新宮市小口へ (本宮町・熊野川町) 13km 晴

古道は「熊野本宮大社」から熊野川を船で下り、河口にある新宮市の「熊野速玉大社」に至り、そこから陸路をとって最終の「熊野那智大社」へと続いており、王子の順番もそのようになっている。

現在も熊野川を船で下ることもできるが、今回は、本宮大社から一般的な陸路をとり、「小雲取越」「大雲取越」という2つの山を越えて「那智大社」に至り、そこから王子の番号を逆に進んで、新宮の「速玉大社」をゴールとするコースをとった。

素晴らしい天気恵まれた「小雲取越」は、滝尻から本宮大社まで2日間の道より易しく、道も良く快適に歩けた。途中にこれまで歩いてきた中辺路の山々を見晴らせる「百間ぐら」という場所があり、誰もいないので「若い広場」を大声で歌った。

小雲取越を下った所が小口地区。ここに泊まって翌日大雲取越に向かう計画だったが、宿は満室。小口からバスで新宮の町まで行って一泊し、翌朝にバスで戻ることにした。

小雲取越と大雲取越に王子はない。

宿) 新宮駅前 「ステーションホテル新宮」素泊 5,900円。 建物は古い。



⑮ 11月22日 小口から 大雲取越・熊野那智大社・浜の宮王子へ (熊野川町・那智勝浦町) 22km 晴

熊野交通バスの新宮駅発 7時10分に乗り、小口着 8時。小口からすぐ急な上りとなる「大雲取越」は「小雲取越」よりハードなコース。息を切らして上っていると、若い女性が下ってきた。朝6時半にJR那智駅を出発し、大雲取越と小雲取越の2つを越えて本宮大社まで1日で行くという。元気が良い。

実は、大雲取越を歩いたのは2回目になる。今年9月に、四国遍路で2週間行動を共にしたアメリカ国籍の50歳の女性シューヤンさんと一緒にここを歩いた。彼女は8月に来日北海道、九州、屋久島、北アルプスなどの山々をトレッキングし、熊野古道を5日間歩くというので、2日間だけ同行したのだ。彼女は日本に1月間余り居た後、母国の台湾に渡り、アメリカの夫と合流して台湾一周のサイクルツアーに参加したあと、ネパールに飛んでヒマラヤトレッキング。約3ヵ月間、3ヵ国の旅を無事に終えた、と先日ロサンジェルスから連絡があった。また来年も日本に行きたいと言っている。

「熊野那智大社」と「青岸渡寺」に参拝し、那智の滝を観て那智駅へ向かう。今回は素泊まりが多かったため、食事はほとんどコンビニ食。最後の夕食は食堂に入って名物のマグロとビールを注文した。

第百一「多富気王子」と第百「市野々王子」。



<那智の滝>

宿) 紀伊勝浦 「海のホラーの滝」素泊 6,150 円。 源泉掛流し温泉。

⑩ 11月23日 那智勝浦駅から 高野坂・熊野速玉大社へ (那智勝浦町・新宮市) 15km 晴

旅の最終日。勝浦駅前の「補陀洛山寺」と第九十九「浜の宮王子」に参拝してから、速玉大社の鎮座する新宮へ向かった。古道はかなり多くの区間が整備されていて、海が楽しめるコースだ。

途中、太平洋を望みながら古道を東に進むと、JRが足下の崖下を大波に洗われるように通っている。建設工事や保線の苦労が想像され、日本の鉄道建設技術の高さと建設への執念に感服する。

海岸沿いの古道から国道に出て歩いていると、向こうから来た乗用車が停った。何と一昨日小雲取越で会ったおばさんだったという偶然もあり、熊野速玉大社に到着した。



<熊野速玉大社>

第九十九「浜の宮王子」から第九十七「浜王子」まで。

大阪から日帰り歩き 5 日間、和歌山市から通し歩き 11 日間、合わせて 16 日間の熊野古道(紀伊路・中辺路)の旅を無事終えた。お土産に速玉大社でミカンを買って、JR 新宮駅から特急くろしおで神戸に戻った。

11 日間という短い通し歩きだったが、それでも妻は山道が多い熊野古道から無事に戻ったのを喜んでくれた。ただ、300 円のミカンに不満らしく、お土産は旅の途中からミカンでも梅でもマグロでも宅配で送れたはずだという。きっとまたハンドバックを買う口実にするに違いない。宅配しておけばよかった。